

# 循環器病克服10年戦略の概要

北村惣一郎

IRYO Vol. 62 No. 3 (121-123) 2008

**キーワード** 心筋梗塞, 脳梗塞, 生活習慣病, 循環器病予防, メタボリックシンドローム

最近の厚生労働省統計によると心筋梗塞, 心不全などの心疾患(心臓病)によるわが国の年間死亡数は約15万人(全死亡数の約15%, 死亡順位第2位), 脳梗塞や脳出血(合わせて脳卒中)などの脳血管疾患による年間死亡数は約13万人(約13%, 死亡順位第3位)で, これらを含むすべての循環器病による年間死亡数は30万人(約30%, 約3人に1人)となり, 肺がん, 胃がんなどさまざまな臓器にできるすべての悪性新生物(がん)による年間死亡数の約30万人(約30%, 死亡順位第1位)とほぼ肩を並べる現状である。さらに, 循環器病患者数(1日当たり平均)は入院31万人, 通院85万人で, がん患者の入院14万人の約2倍, 通院11万人の8倍にもなる。さらに医療費でみると循環器病は, がんの1.7倍にもなっている。その上, 介護を必要とする者の3人に1人が脳卒中患者でもある。このように, 通常は心臓病, 脳卒中, 高血圧症などとして個別に議論される病気を循環器病としてひとまとめにすると, 医療・介護の分野における循環器病の深刻さが明白となってくる。

一方, 循環器病の大部分は日常の生活習慣(食事, 運動, 休養, 喫煙, 飲酒等)によって発症・進行してくる病気であり, その生活習慣を改善することにより発症や重症化を予防できることがわかってきている。そのため, 「健康日本21」, 「健康増進法」, 「健康フロンティア戦略」が次々と打ち立てられ, 循環

器病死亡数, 患者数, 要介護者数を2-3割減らす目標があるが, なかなか国民一人一人にまでの啓発は不十分であり, 目標達成の困難さが危惧されていた。そこで, 平成20年度からは, メタボリックシンドロームに焦点を向けた特定検診や指導が各地で展開されることになり, 生活習慣病を基盤とする動脈硬化症の発症予防に力が注がれることになっている。

がんと診断されれば患者のみならず家族間にも強い悲壮感が漂うことになるが, 循環器病は急死か, さもなくば予後が不確定のまま通院, 入院あるいは要介護ともなるので, がんの場合ほど悲壮感が漂わないようである。このようながんと循環器病とのイメージの違いからか, わが国では循環器病研究に対しては, がん研究に対する研究費のわずか4分の1程度が投入されているにすぎない。ちなみに米国ではその割合は2分の1強である。しかも, がんにしても循環器病にしても, それぞれの病気を予防・治療するための医学・医療においては未解決の問題が多く, 現状のままでは健康寿命で生き甲斐に恵まれた未来を実現することがなかなかできない。

私どもは平成16年と17年に厚生労働省循環器病研究委託費を得て, 今後ますます生活習慣が欧米化し, 少子高齢化していくわが国において健康長寿で生き甲斐に恵まれた未来を実現するために必要とされる循環器病克服を達成するための戦略を検討してきた。そして, 平成18年3月に「循環器病克服10年戦略」

国立循環器病センター 総長 北村惣一郎

別刷請求先: 北村惣一郎 国立循環器病センター 総長 〒565-8565 大阪府吹田市藤白台5-7-1

(平成19年12月14日受付, 平成20年2月15日受理)

A 10-Year Strategy for Cardiovascular Diseases

Soichiro Kitamura

**Key Words:** myocardial infarct, cerebral infarct, life-style related diseases, preventive cardiology, metabolic syndrome

を作成し公表した。この中では循環器病医学・医療の現状を分析し、必要とされる課題を見出し、それを実現するための研究・調査・情報発信・人材育成・それらの体制整備等においてどのような重点分野を取り上げて推進すべきかをまとめた。

「循環器病克服10年戦略」についての各論については、個別に本誌に掲載されているので全体的な方向性についてのみ述べてと図1、2にまとめたごとくである。これらの施策により健康フロンティア戦略、新健康フロンティア戦略が示す数値目標である心疾患死亡率を25%改善、脳卒中死亡率を25%改善、糖尿病発生率を20%改善が実現できることを願う。国立循環器病センターはこの「循環器病克服10年戦略」を実行する機関として表1、図3に示す6項目に今後とも力を注いでゆきたい。

表1 循環器病克服への6基本方針

- ・ 予防法のさらなる進歩と充実
- ・ 侵襲の少ない安全安心な革新的診断・治療法の開発
- ・ 最先端研究成果の標準医療への効果的応用
- ・ 腕のよいハイレベル専門医療スタッフの養成
- ・ 必要な医療情報を得やすいインフラの整備
- ・ 切れ目のない長期的な疾病管理体制

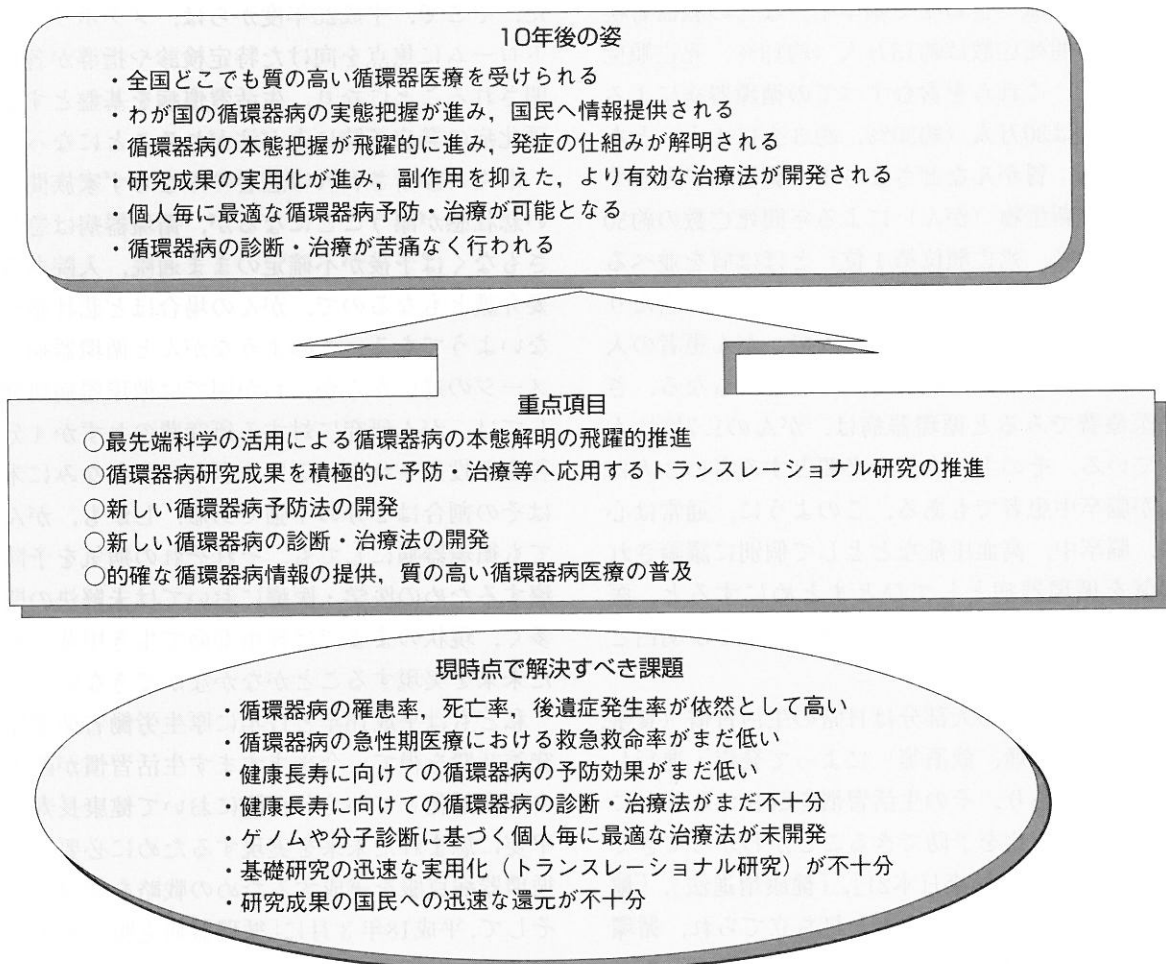


図1 「循環器病克服10年戦略」の構想の概要

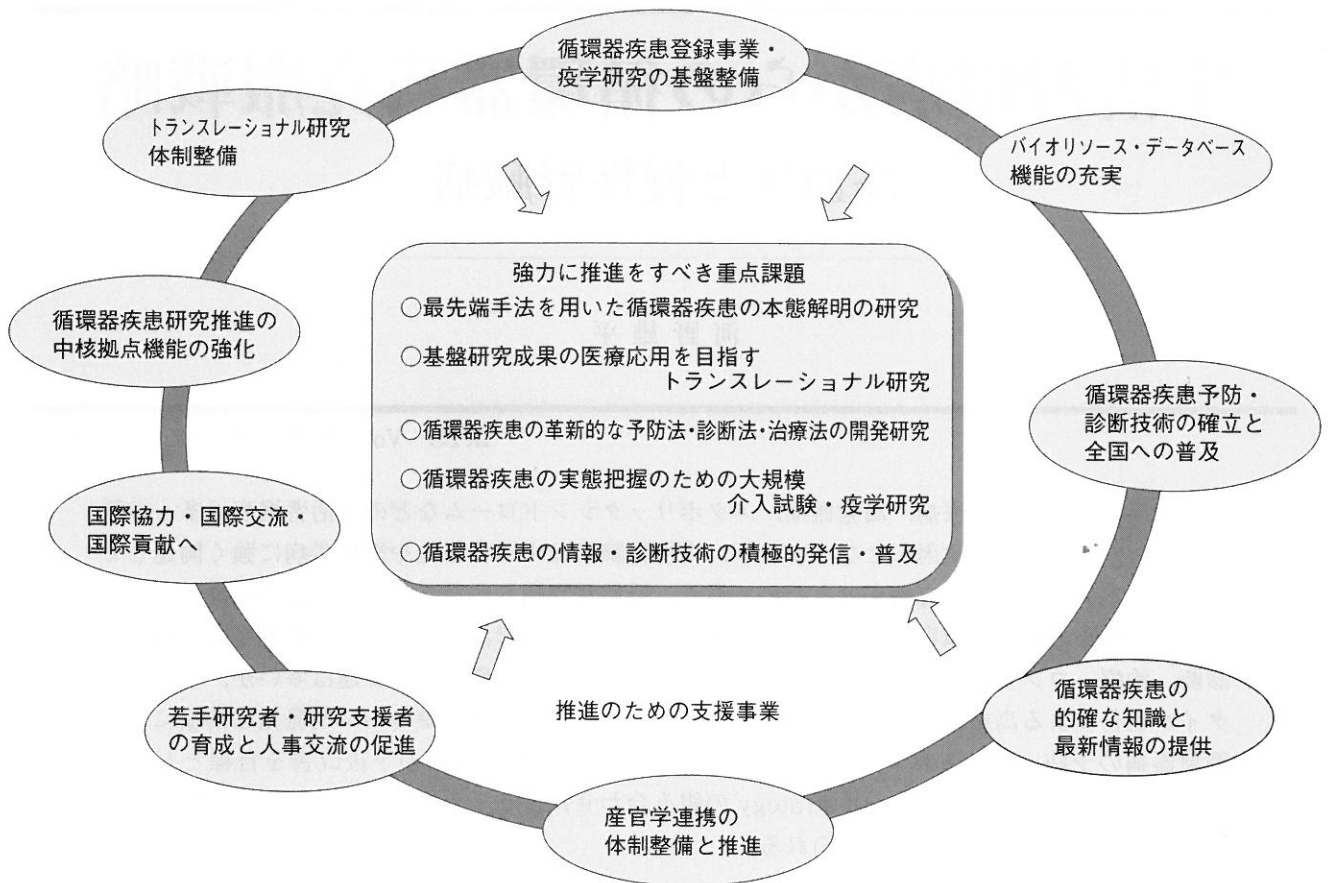


図2 「循環器病克服10年戦略」の推進すべき重点課題

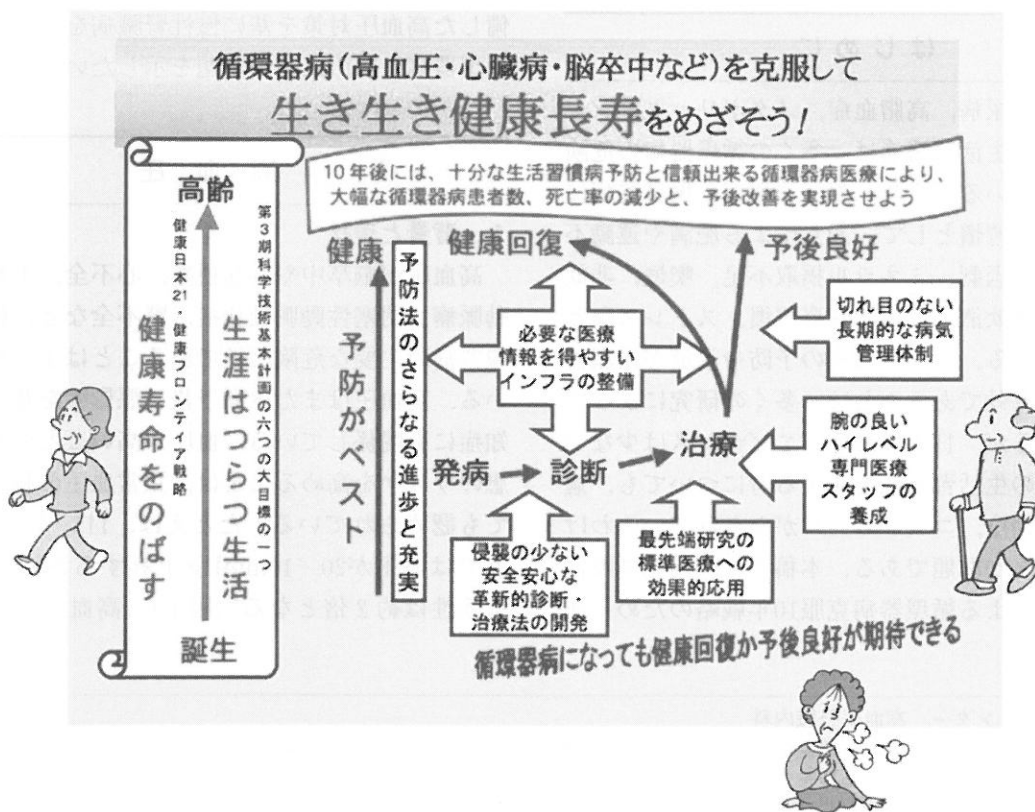


図3 「循環器病克服10年戦略」の一般市民向け普及広報